

福島県磐梯町合同視察報告

和歌山県・市町村行政DX推進部会

2024年10月

1. 視察と働き方の再デザイン（菅原総合プロデューサー）

2. 輪番発表（1自治体3分目安）

- 2.1. 和歌山市
- 2.2. 海南市
- 2.3. 御坊市
- 2.4. 岩出市
- 2.5. 九度山町
- 2.6. 高野町
- 2.7. 日高川町
- 2.8. すさみ町
- 2.9. 那智勝浦町

視察と働き方の 再デザイン

2024年10月作成

和歌山県・市町村DX総合プロデューサー
磐梯町「旅する」副町長兼CDO・CISO

菅原直敏

和歌山県・市町村行政DX推進事業
に関わって、本年度私が皆さんに
ご提案したことを紹介します。



2023年12月、総務省により「人材育成・確保基本方針策定指針」(図左下：同指針概要)が26年ぶりに改訂されました。その中で、地方公共団体を巻き込む状況が大きく変化していることが示され、「個人のライフプラン・価値観の多様化」や「新しい公共私間の協力関係の構築」等に触れる等、従来の公務員の働き方のあり方を根本的に再デザインすることが求めています。

また、本事業では県・市町村・民間人材等の様々なステークホルダーが関わりますが、私たちが提案している「県・市町村・民間の”境界を超えた”きょうそう」を実現するためには、特に民間かつ和歌山県内のステークホルダーの関わりが不可欠であると考えています。

そこで、これらの2点を踏まえ、公務員の働き方を再デザインすることと県内人材の地産地消への挑戦と題して、本事業を通じて、以下に挑戦します。

- ① **公務員の複業の事例化**：県外の現職の常勤特別職・一般職公務員が複業として本事業の自治体支援にあたる事例を創出することに挑戦します。
- ② **県内インターンの採用**：県内大学等と連携して、学生インターン等を採用することに挑戦します。
- ③ **旅する公務員の創出**：DX先進自治体である福島県磐梯町の「旅する公務員事業」を参考に、県内市町村において、旅する公務員の創出に挑戦します。

人材育成・確保基本方針策定指針 概要

現行指針（平成9年 人材育成基本方針策定指針）

- 地方分権推進の要である職員の人材育成を進めるため、地方公共団体が「基本方針」を策定する際に留意・検討すべき事項を提示した「指針」を策定 ※ 令和5年4月1日時点で、ほぼすべての地方公共団体（95.6%）が方針を策定（改定率57.8%）

新たな指針（令和5年12月 人材育成・確保基本方針策定指針）

- 生産年齢人口の減少、働き手側の価値観の多様化、デジタル社会の進展等により地方公共団体を巻き込む状況が大きく変化する中、複雑・多様化する行政課題に対応する上で、人材育成・確保の重要性が高まっていること。また、第33次地方制度調査会において、都道府県等が市町村と連携して専門人材の育成・確保に取り組む必要性の重要性が指摘されていることも踏まえ、現行指針を大幅に改正
- 「人材育成」に加えて、「人材確保」、「職場環境」、「デジタル人材の育成・確保」に関する検討事項、留意点を記載
- 各地方公共団体が基本方針を改正等する際の留意すべき事項等を提示し、「基本方針」の改正等を促すことで、人材育成・確保の取組を推進

< 基本方針の改正等に当たっての基本的な考え方 >

- 求められる職員像・職務分野等に応じた必要なスキルを明確化
- 特に必要となる人材について、可能な限り定量的な目標を設定、定期的に検証、取組改善
- 部長等が積極的に関与、人事担当部局と関係部局が連携
- 単独では育成・確保が困難な市区町村への都道府県の支援、市区町村間の連携の強化

< 人材育成・確保の検討事項 >

1.人材育成

リスキリングやスキルアップによる必要となる人材の計画的・体系的な育成 等

人材育成プログラムの整備

人材育成手法の充実

人を育てる人事管理

2.人材確保

新卒者に限らず、多様な経歴等を持った経験者採用の積極的な実施 等

公務の魅力の発信

多様な就業方法の工夫

外部人材の活用 等

3.職場環境の整備

全ての職員がワーク・ライフ・バランスを保ちながら、能力を最大限発揮できる職場環境の整備 等

多様な人材の活躍を可能にする職場環境の整備

働きやすい職場の再構築の整備

職員のエンゲージメントの促進

4. デジタル人材の育成・確保

高度専門人材、DX推進リーダー、一般行政職員ごとに想定される人材像や役割を整理し、育成・確保を推進 等

職員のデジタル分野の知識・スキル等を把握の上で、求められる人材のレベルごとに育成・確保すべき目標を設定

人事担当部局とDX担当部局等の緊密な連携、部長等のトップマネジメント職のコミットメント等によるデジタル人材の育成・確保に係る推進体制の構築

自治体だけではデジタル人材の育成・確保が困難な市区町村に対する都道府県による支援

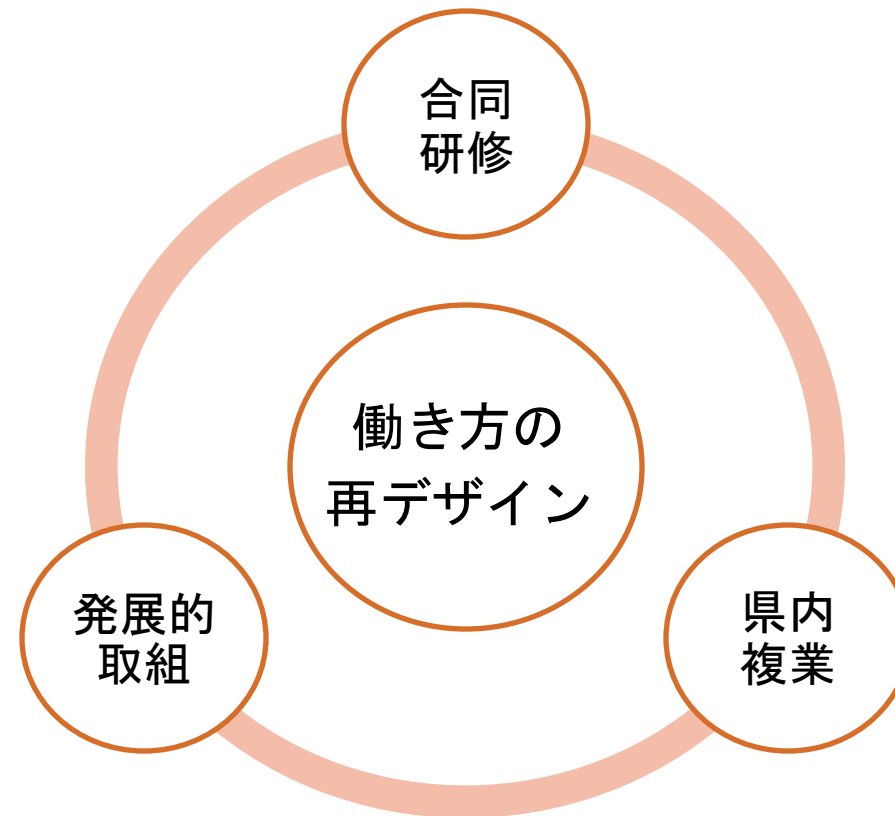
デジタル分野の専門性、行政部の専門性を合わせて向上させながらキャリアアップを図ることができるキャリアパスの提示

5

Copyright(c) Nao SUGAWARA all right reserved.

和歌山県内自治体における 「働き方の再デザイン」の実践



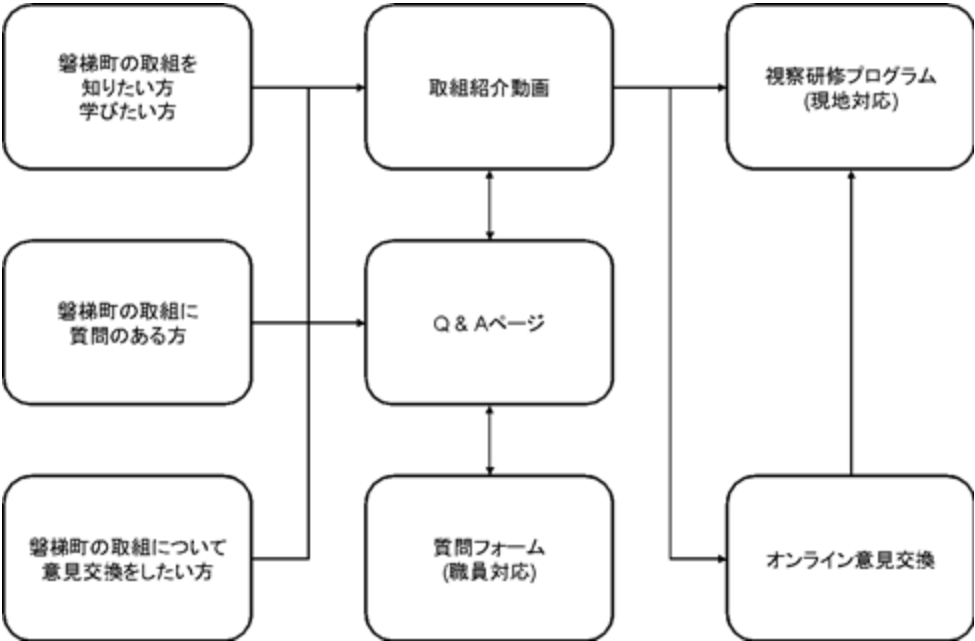


【背景】

2019年にデジタル変革の取組を開始して以来、その取組が全国事例化したこともあり、全国の行政・議会関係者からの視察依頼が激増しました。このことにより、磐梯町の認知度向上しただけでなく、その取組が全国にも伝播をしました。一方で、視察の受入基準がなく、業務フローも標準化されていなかったため、業務負荷の増加の要因となっていました。さらに、一般的な宿泊施設がないこともあり、短期滞在による視察のため、訪問者が街の様子を体感することもなく、地域経済には一切の還元がありませんでした。

【目的】

- ①職員：職員の視察受入業務負荷の軽減と平準化(及び職員育成)
- ②地域：地域経済への還元と交流・関係・愛着人口の拡充
- ③社会：磐梯モデルの伝播



■実施概要

期間：7月3日～5日

場所：磐梯町役場・道の駅ばんだい他

スケジュール：

3日（水）16:00～17:00 「(仮称)町民のしあわせ共創・協働基本方針骨子」の沿革・現在・展望についての講義（菅原副町長）

4日（木）9:00-11:00 道の駅ばんだいのデータ利活用等に関する講義・ばんだいコインチャージ体験
11:00-11:30 佐藤町長による講演

13:00-15:00 「行政経営の再デザイン」についての講義（菅原副町長）

15:30-16:30 榮川酒造見学・地域電子通貨の観光振興における活用

5日（金）9:00-10:00 「働き方の再デザイン」についての講義（菅原副町長）

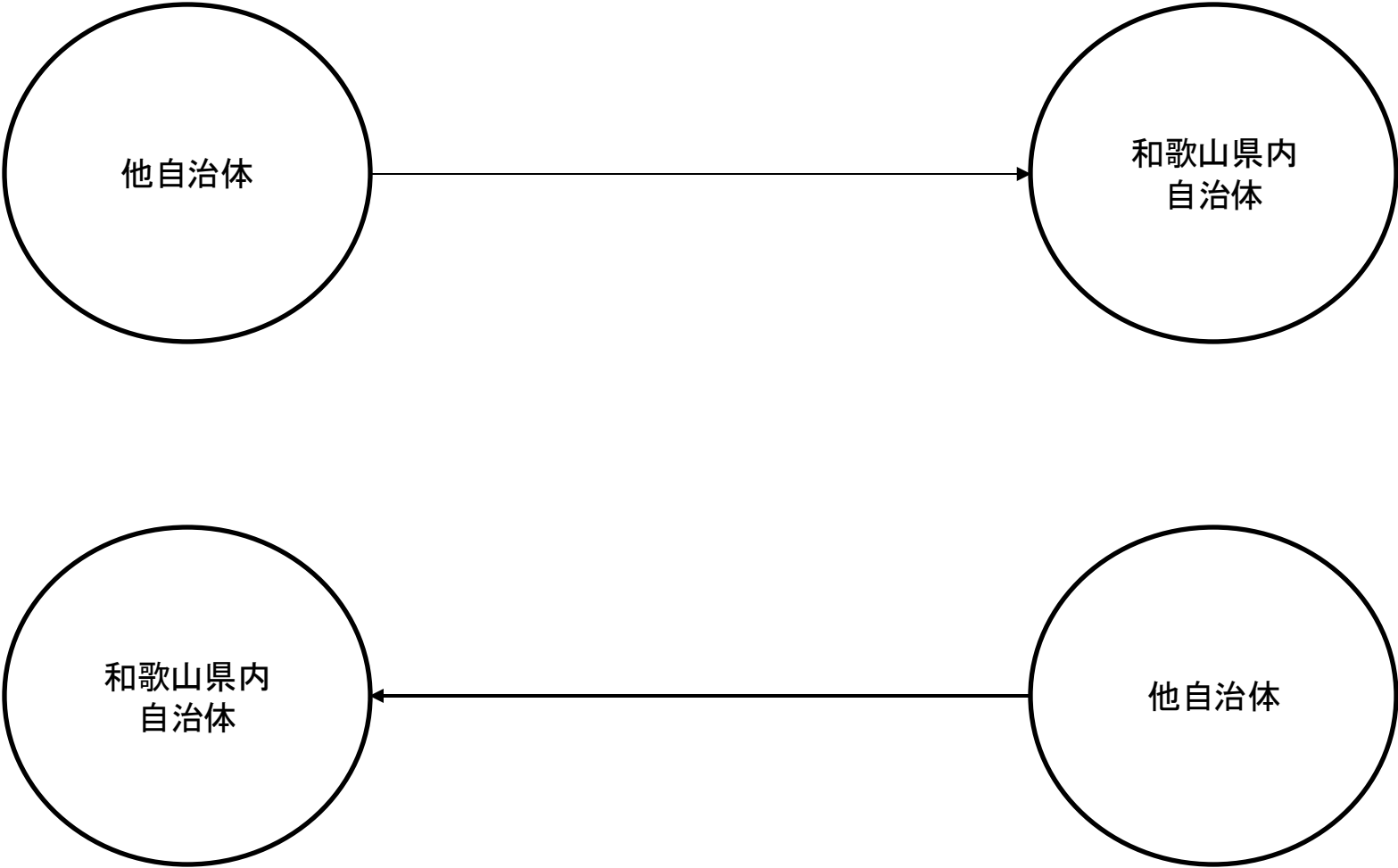
10:00-11:45 研修の振り返り等

■今後の展望

磐梯町は、これまでに行ったDX推進の先駆的取組やこれから実施する「行政経営の再デザイン」等の取組に関して、国や全国の地方自治体からも注目されており、それに伴い多くの視察依頼をいただいております。今回の視察受入実証事業を皮切りに磐梯町は、視察側にとっては有益で、受入側にとっては地域振興かつ負担減につながるような「視察の再デザイン」をすることで、双方にメリットのある視察受入体制を構築していきます。

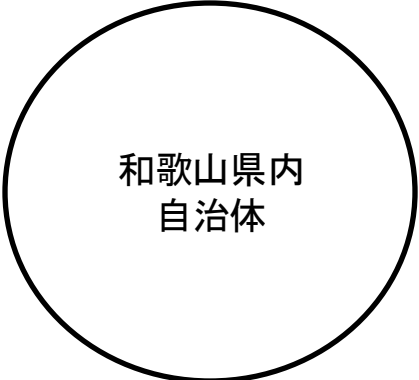
その他の再デザインー例～視察の再デザイン→実施(和歌山県・9市町)

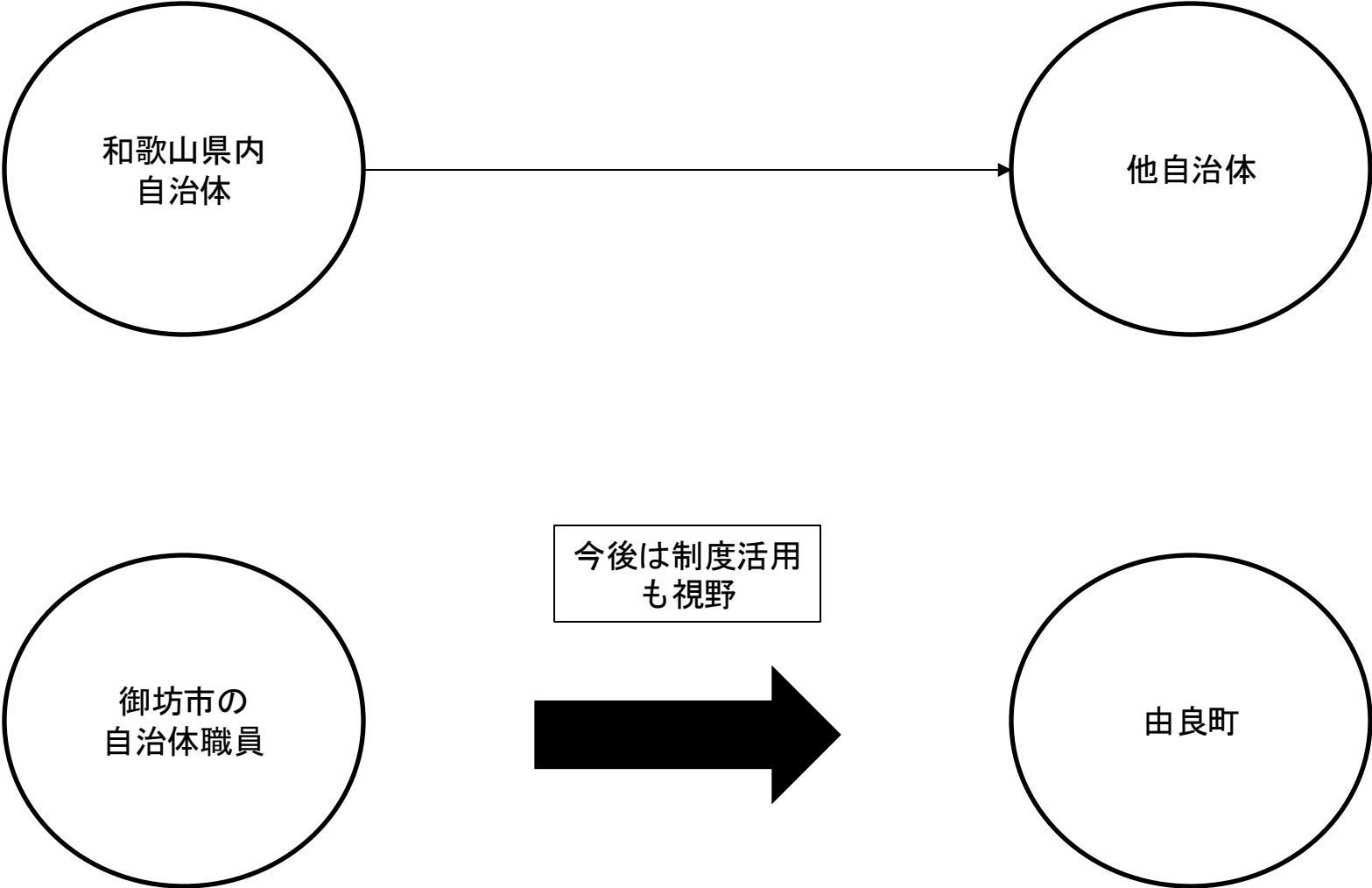






受託事業
制度活用





6月
旅する副町長
として、菅原
がすさみ町へ
訪問



7月
合同研修で、
すさみ町3名の
職員が磐梯町
来訪



8月
すさみ町長他
5名が磐梯町
来訪



現時点での実績と成果

- ・ 磐梯町のノウハウを共有することで、すさみ町の組織課題が解消。
- ・ 独自の外部人材を町として配置することで、すさみ町の自立的取組が促進。
- ・ 現地研修によって、すさみ町職員の自治体DX、働き方の再デザインにかかる認識共有・機運醸成
- ・ 双方の自治体の地元紙への掲載による認知度向上
- ・ 双方の自治体の交流・関係人口の増加



既に自由提案の事項が実践フェーズに入りつつあります。

- ・ 公務員の複業
- ・ 旅する公務員

重要な点は、これらを通じて、双方の自治体における課題解消と価値創造が協働・共創され始めていることであり、その前提には自治体DXの取組があることです。

なお、すさみ町で展開された「旅する副町長」や「旅する公務員」等の取り組みは、海南市、紀美野町、北山村でも年度内実施予定です。特に北山村については、奈良県の上北山村、下北山村の3村との合同研修等も予定されています。

働き方に関する先入観を払拭して、実践と事例を一步ずつ積み上げていくことが今年のステップ。来年度以降はより多くの事例が生まれ。再来年度以降は、当たり前前になっている状態になると良いです。

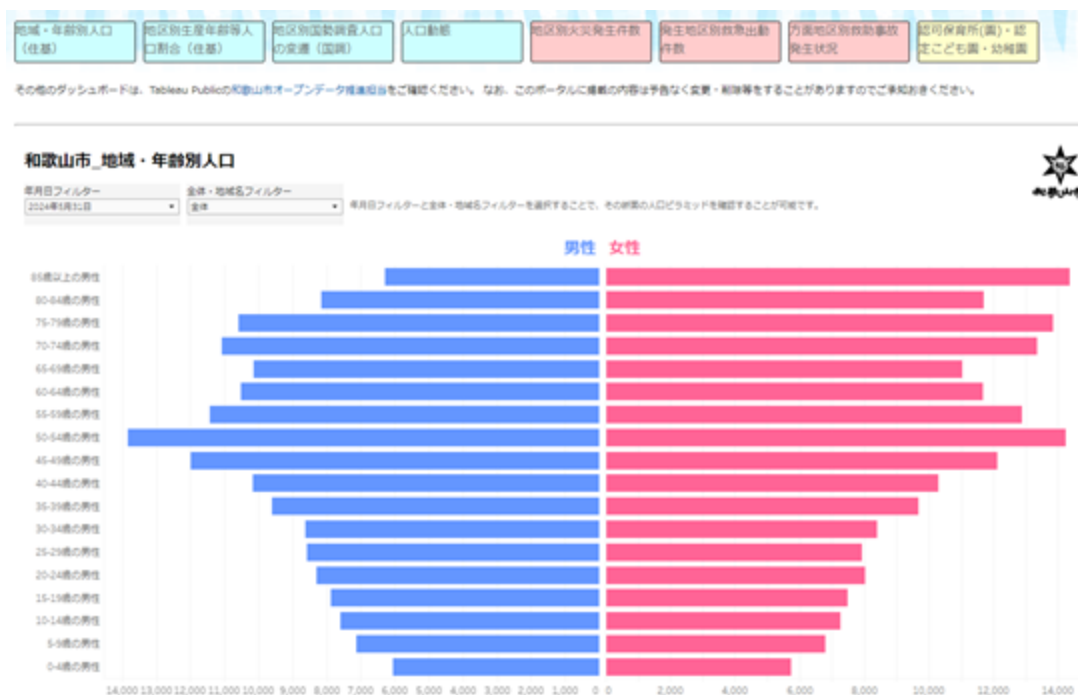


2. 輪番発表

和歌山市で現在取り組みだしている点

一般社団法人ばんだい振興公社の鈺持様の講義の中で、皆がグラフを必ず目にする環境にすることが重要。見ていれば誰かがなにかに気づくというお話がありました。

現地視察を受けて、各課が独自に保持しているデータを自由に見られる"データスペース"をグループウェア上に構築しました。今後、データやダッシュボードのさらなる拡大に取り組みます。

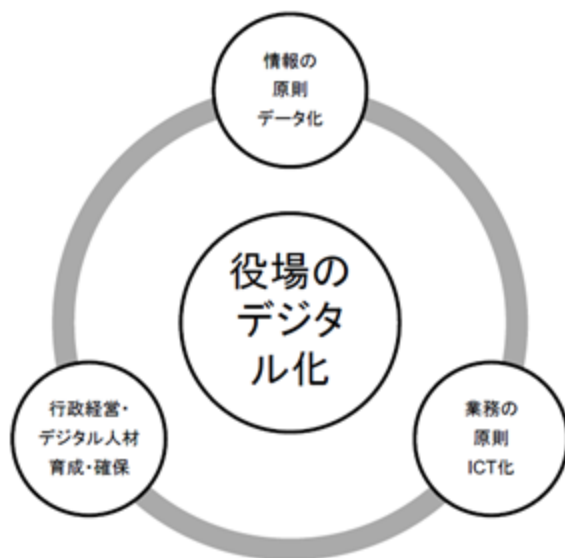


和歌山市のオープンデータを基に作成したダッシュボード

2.輪番発表 ①和歌山市

和歌山市で実現していかなければならないと感じた点

菅原副町長の講義の中で人材育成のビジョン（将来像）のお話がありました。和歌山市では市内で人材育成していくのか、専門家の確保をおこなうのかについて現在のところ明確にできておらず、現在作成中の第3次和歌山市人材育成基本方針に盛り込む想定です。



和歌山市も現在この三本柱でデジタル化を進めています。

赤べこ にぎにぎボイスが売り切れだったのが唯一心残りです→



INPUT（視察で得た気づき）

Mission・Visionの重要性

組織のMission（使命）とVision（将来像）を明確にし、全職員が認識を共有することで共通の目的・価値観をもって取組を進めることができる。

まちの将来像と指針



菅原副町長の研修資料より抜粋



OUTPUT（海南市での実践）

DXに関するMission・Visonの策定

令和7年度に策定予定の「第4次海南市総合計画」において「デジタル技術の活用」が重点プロジェクトに位置付けられることを踏まえ、DXにかかる今後の方針としてMissionとVison（+Value）の策定に取組中。

＼ 現在検討中 /

Mission

だれもが笑顔になれるデジタル改革

Vision

デジタルの力で築く笑顔あふれる持続可能な社会

これまでの取組と今後の方針を整理



磐梯町の冊子を
参考に作成



【（番外編）視察を通して印象に残ったことランキング】

1. クマが出るので一人で出歩かないように、と言われたこと



2. 日本百名山である磐梯山を見れたこと



3. 磐梯町の方はお酒が強い



2.輪番発表 ③御坊市

【視察を通して印象に残ったことランキング】

1. 総合計画のMVV(ミッション・ビジョン・バリュー)の実現が根底にあり、DX（デジタル変革）は1つの手段に過ぎない。
2. DXの取組みは本質的には経営であり、MVVを実現するために経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を徹底的に有効活用する。
3. 行政運営に関わるあらゆることについて、再デザインという見直しを行う取組みを進めている

【自団体で実践できる（している）こと】

1. R6.4に行政改革・変革を担当する専任部門である「情報化・イノベーション推進室」を設置し、行政改革・変革の取組みを主導する体制で現在進行形で進めている。
2. 一部門で出来る範囲になるが、様々な見直し（再デザイン）を行っている。
3. 特定部署を対象にBPR（業務改革・業務改善）の取組み（プロジェクト管理・業務洗出し・フロー図化・改善提案）を実施中。また年度内に、勤怠管理システム導入、代表電話・年末調整業務の外部委託を実施予定。令和6年7月1日「ワークシェアリング制度」創設、令和6年8月1日「キャリア・リターン制度」創設、その他、フレックスタイム制、勤務間インターバル制度、などを検討中...

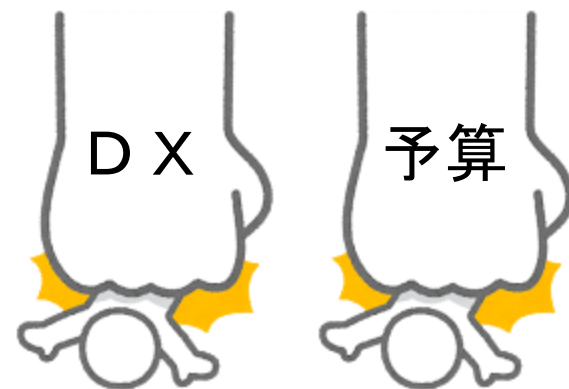
①よくある特徴



否定派職員
(抵抗勢力)

- ・ デジタルはわからない、難しい！
- ・ 職員に新しいことをする余裕がない！
- ・ 補助金なしでは予算が取れない！
- ・ 新しいことを始めるのは後でいい！
- ・ 職員が汗かいて頑張ればいい！

と思いきや、いきなり始まる新事業...



情報政策担当職員

②視察で感じた磐梯町の特徴



- ・ トップマネジメントが意識して職員をどうしたいかを考える
- ・ 町長自らが自分の考えがあって自分の言葉で伝える
- ・ 短期的な投資を中長期的な経費削減、業務効率化等につなげる
- ・ 利害関係者との徹底的な対話から逃げない
- ・ 人材育成のために危機感を持たせて担当レベルにも考えさせる
- ・ 人材育成には限度があるので足りない部分は外部人材を活用する
- ・ 働き方を再デザインする

③視察を通じて印象に残ったこと

- ・ 否定派（抵抗勢力）をつくらない
説明能力、機運醸成が足らないと考えることが大事。
当たり前前にデジタルがある中で手段として使う。
- ・ 新規事業や業務効率化をできない理由を探さない
使命(Mission)・将来像(Vision)・行動指針(Values)を根底に
本当に必要なことを進めていく。（補助金で判断しない）
- ・ 行政経営に足らない部分を埋めるためにデータを活用する
最初はデータを眺めるだけでもいい。データをいつでも
誰でも見れることが大事。
- ・ 組織としてどのような行政にしていきたいか目標を定める
人口維持施策では減少を食い止められない。
- ・ 地味だけど不可欠な取り組みの重要性

人づくり

組織づくり

仕組づくり



1日目懇親会
3日目集合写真



自治体間の交流ができ、とても有意義な視察でした
ありがとうございました

和歌山県・市町村行政DX推進による行政経営変革支援業務事業 合同視察 @福島県磐梯町

多くの有益な内容、印象に残る言葉がありましたが、その中でも以下の2つを挙げます！

1. ミッション・ビジョンの重要性
2. データを活用した現状把握と人材育成

ミッション・ビジョンの重要性

- 何事を実施するとしても、基本として一番重要
- 明確でブレないものを設定し、定期的に立ち戻り確認する
- 認識の共有・合意も重要
- ◆ 「目標・目的」と置き換えたら、とてもしっくりきました
- ◆ 「課」や「グループ」といった範囲での業務においても重要

磐梯町視察研修プログラム資料より引用

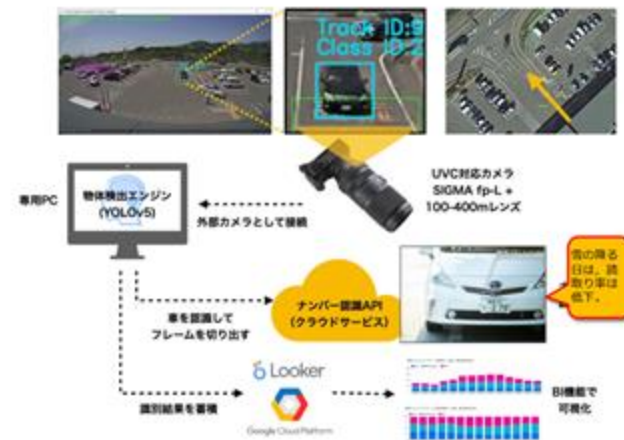


データを活用した現状把握と人材育成

- 現状把握が得意ではなく、分析も苦手
- 「道の駅ばんだい」では「自動車ナンバー読み取りシステム」にてデータを収集し活用している
- 収集したデータを元に行動し、人材の育成にもつなげている※データを見て「気付ける」人材の育成
- データは「ただ眺めるだけ」で、最初は良い
- 「1人の天才の思いつきより10人の試行錯誤の継続の方が強い」
- ◆ 人材育成は、自ら考え行動することが大事

道の駅ばんだいデータ活用について 資料より引用

自動車ナンバー読み取りシステム構成図



合同視察に参加して

非常に参考になりました。

一朝一夕に成果が出るものではないですが、少しずつでも前進できるよう、今後の業務に生かしていきたい。

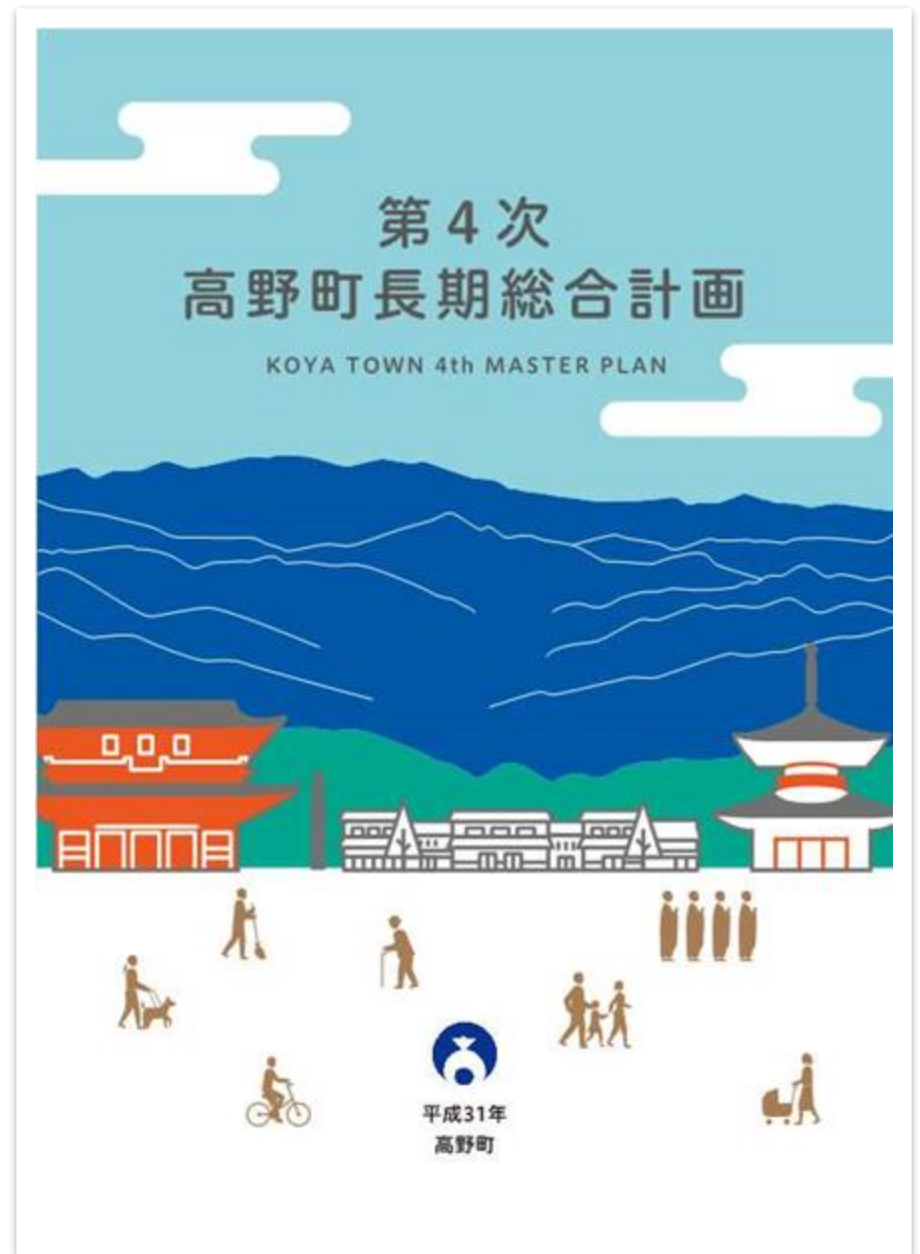
今回の視察を通して感じたこと

- 【総合計画の重要性】

総合計画が、「行政運営を図るための最上位計画」であることを理解し、総合計画に記載されていることを実現するためには、どうすればよいか。

- 【DXではなく、再デザインの必要性】

- ・DXはあくまでも手段の一つであること
- ・行政で行っている各種事業を「町民本位」「職員本位」で再デザインすること
- ・「業務改善」だけではなく「業務削減」も必要であること





合同視察楽しかったです！

交流会ありがとうございました！



自然や史跡も楽しませていただきました🙏
(磐梯山へお大師さまが来られていたことを初めて知りました.....)

・ DX研修において学んだこと

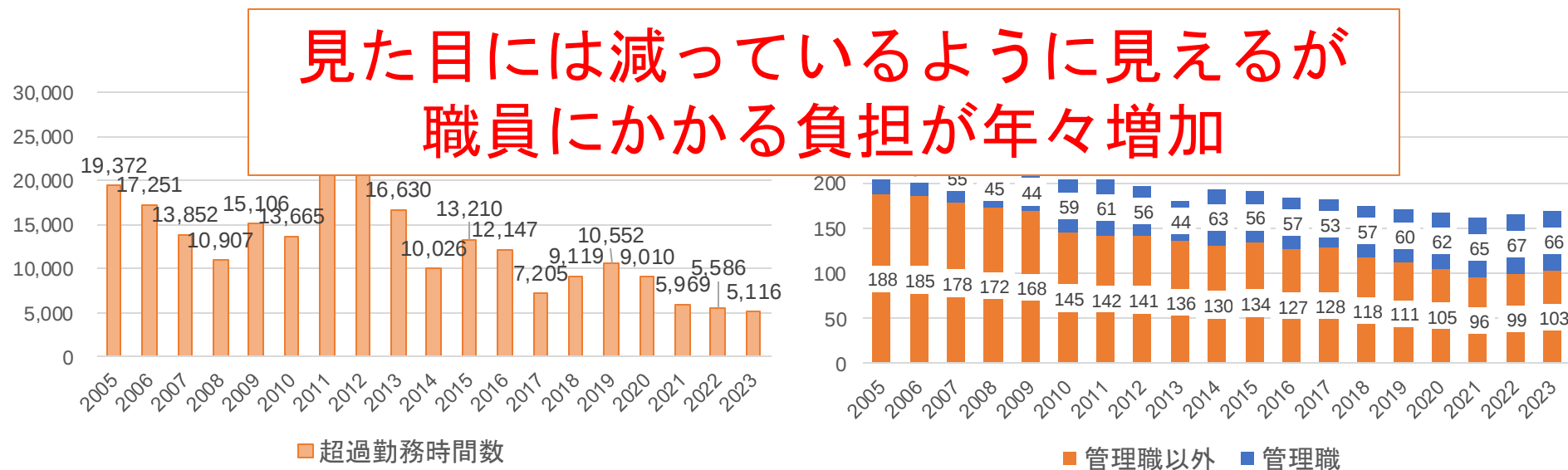
磐梯町では・・・

2021年8月31日「脱デジタル宣言」 デジタルからデザインへ

「幸せ・まちづくりの再デザイン」「行政経営の再デザイン」「働き方の再デザイン」

そこで「働き方の再デザイン」に注目！！

・ 日高川町の現状



○職員 1 人あたりの平均超過勤務時間数

2008年・・・63.4時間 → 2023年・・・49.7時間

職員数の減少 250人 → 169人 (▲81人)

※管理職は、増加↗ 一般職員は大きく減少↘

・ どのような風に進めていくか

- ①課題や問題点を可視化し、②課題解決に向けた対策や目標を設定し、③理想と現実のギャップを埋める

現在、日高川町では・・・

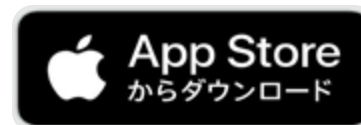
- ・（令和5年度から）全職員に対して、**業務改善研修**を実施
→業務の見直しや課題などの洗い出し、業務効率化を図る
- ・（令和5年10月から）**電子申請システム（LoGoフォーム）**を導入
- ・（令和6年5月から）**防災・行政情報アプリ**運用開始
- ・（令和6年9月から）紙タイムカードを**ICカード**に変更
→管理職の労働状況についても把握していく



ICタイムレコーダー

今後の取り組み（担当者だけで検討中）

- ・（令和8年度以降）**電子決裁システム**を導入
→庁内のペーパーレス化を図る
- ・（未定）**自治体窓口DXaaS（書かない窓口？）**を導入
→対外的にDXの取り組みをアピール
- ・ 職員のスキルアップ
→ITパスポートなどの資格取得に対しての補助や、人事評価と連動して評価項目に



すさみ町の取り組みと磐梯町からの学び

すさみ町の取り組み

- ・新庁舎建設：令和8年度開業
- ・機構改革とDX推進：
新庁舎建設を契機に、働き方改革や職員の意識改革を含む機構改革やDX推進に取り組んでいる



全国の自治体庁舎で初めて良品計画が設計を行う

磐梯町からの学び

- 磐梯町の組織再編
- データ利活用
- 電子地域通貨「ばんだいコイン」

磐梯町デジタル戦略変革室の組織図(R6.4.1現在)



学びを実践に移す

行政経営と働き方の再デザイン

磐梯町を参考に、持続可能な行政経営と職員本位の働き方への取り組みを進める

データを活用した集客戦略

「道の駅すさみ」を中心に、データ利活用による集客戦略を構築

人材育成

簡単なステップから始める人材育成の重要性

地域間交流の強化

磐梯町との交流を深め、他の自治体との連携強化



道の駅すさみ（防災道の駅）

全国の道の駅から39駅が「防災道の駅」に選定



6月12日全職員対象に講演

いざ、磐梯町へ ～約8時間の大移動～

那智勝浦町役場
総務課情報係 西山



④郡山～磐梯町 58分

③東京～郡山 1時間21分

②名古屋～東京 1時間35分

①新宮～名古屋 3時間22分

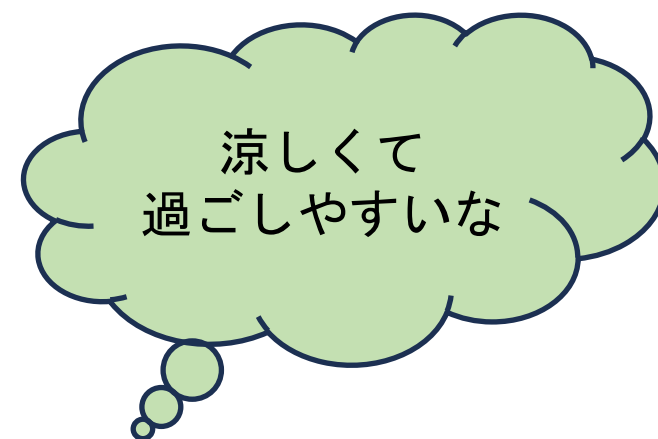


視察の中で印象に残ったもの

デジタルからデザインへ

真のBPR

働き方の再デザイン



ぜひ、一度は磐梯町へ

